



to tell the story
共同通信



2006年9月8日 121号(331号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、 Email: koudou@gamma.ocn.ne.jp

http://www.koudou.jp/ 振替01170-3-4901

ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 21

「名前のない僕と、名前のいない子どもたち」

共同教会キャンプで100人の子どもたちと過ごした三日間は、僕にとって『名前のない三日間』であった。もちろん僕には、ウルトラの父ならぬウエキ屋の父につけられた、『大葉(ひろは)』という愛らしい名前がある。しかし、このキャンプで初めて出逢った子どもたちは、僕の本名などお構いなしに、実に様々な『あだ名』をつけてくれた。「花ガラ太郎」、「電波フェチ」、「ラモジローさん」、「梅ボシ太郎」、「チョイワル兄さん」、「年齢不詳35歳」などなど……。もはやなぜそんなあだ名がつけられたのか、その由来さえ今となっては思い出せやしないが、しかし、これらのあだ名で僕に呼びかけ、僕と一緒に遊んでくれた

「彼ら」の顔は、今でもはっきりと覚えている。

教会のキャンプにはじめて参加したのが十数年前。僕はいつのまにか大学生となり、今、学生生活最後の夏を送っている。考えてみれば大学に入学して以来 - つまり、『大人』になって以来 -、自分の名前や年齢、学校名や肩書き、そういったものに捕らわれて、人との出逢いや他人との関係になにか堅苦しさを感ずる、そんな日々を送ってきた気がする。

そして僕自身、このキャンプに参加する前日までは、キャンプで初めて出逢う年下の「彼ら」と話をしたり遊んだりするのに、どんな顔をすればいいのか、どんな態度で

臨めばいいのか、そんなことを気にしていた。

しかし、「彼ら」にとって、キャンプに突然参加した僕が「何者」であるか、そんなことはどうでもいいことだったようだ。名前も知らないはずの僕に思い思いのあだ名をつけて、僕を仲間として、友達として受け入れてくれた。その瞬間から、僕もつまらないことを気にするのはやめにして、名前も知らない「彼ら」と大いに遊び、歌い、そして踊った。お互いの名前なんて必要なかった。言葉にはできない、なにか懐かしい気持ちが溢れていた。

そう。僕は今年、なにか懐かしさに誘われて、七年ぶりにこのキャンプに参加した。ぼんやりとはわかっているけど、参加する前にはその懐かしさの正体がなんなのかよく分からなかった。今思えば、子どもの時には本能的に感じていた、見知らぬ人たちとの初めての出逢い、そんな出逢いの喜びが、僕を誘った懐かしさの正体なんじゃないだろうか(聞けば、僕は相当人見知りする子どもだったらしいけれど)。

その日初めて出遭った子どもたち - 名前も知らない子どもたち - と、こんなにも楽しい時間を過ごせたことが、嬉しくて、嬉しくて、そして懐かしかった。初めての出逢いが楽しいものだってことを、長い間忘れていたような。

おそらく、今回のキャンプが僕にとって最後のキャンプになると

思う。僕は来年から東京で働く。『社会人』になってしまえば、きっと今以上に名前や年齢、肩書きや地位、そんなもの - 子どもたちにとっては、本当につまらないもの - にとらわれた、堅苦しい「出逢い」をいくつも経験するんだろう。でも僕は、このキャンプを通じて、人と人が初めて出逢うとき、本当に気にすべきことはそんなものじゃないって事を、子ども達に教えてもらった。名前なんか知らなくたって、肩書きなんて気にしなくたって、もっと素直にその出逢いを楽しむことを考えればいいんだってことを。

それでもきっと、『名前のある者』同士の新たな出逢いに、息苦しい思いをするときがあるだろう。疲れてしまうことがあるんだろう。そんなときは、キャンプで踊ったキジムナー音頭を踊ろうか。長い間忘れている、大切なものを思い出すかもしれない。

懐かしさに誘われて、またキャンプに行きたくなるかもしれない。

そのときはまた、新しく出逢う子ども達に、いっぱいあだ名をつけてもらおう。

(阪上大葉)

相も変わらず、日本にはいろんな場があって、その中には必ずピラミッドがある。階級的ピラミッド。で、俺はともかく昔から、そのピラミッドの舌の部分が気になって気になってしょうがないねん。
(中川敬)

神殿の働きを記述したイザヤ書(56章)を引用するにあたり、ルカ福音書は「『・・・わが家は祈りの家であるべきだ』と書いてある(19章46節)とし、マルコ福音書は「『・・・わたしの家はすべての国民の(すべての国の人の)祈の家となえられるべきである』と書いてあるではないか(11章17節)としています。イザヤ書では「我が祈の家のうちで楽しませる」「わが家はすべての民の祈の家となえられるからである」(7節)と繰り返されています。イザヤ書が「聖なる山」の神殿を「祈の家」と定義したのは、主なる神と向かい合う時の人々に、そのことを何よりも望んだからです。「・・・わが安息日を守り、わが喜ぶことを選ぶ」人を、神は何よりも喜ぶし、神殿はそんな人たちの神

と向かい合う祈の家なのです。イザヤ書の場合、そこで祈る人たちは“すべての民”です。ルカ福音書は、その場合の“誰”をはぶいてしまっていますが、マルコ福音書は“すべての国の人”(すべての国民)と、いわばその範囲を広げています。

なのに、すべての国の人の祈の家を、「・・・あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」と、イエスは厳しく批判します。と言うか、そんなことになってしまっている現状は大変によろしくないことを教えているのです(マルコ福音書11章17節)。そうして教えている“あなたがた”には、「宮の庭で売り買いしていた人々」「両替人」「はとを売る者」などはもちろん、「祭司長、律法学者たち」も含まれます。厳しく批判が込められてはいたのですが、そ

日本基督教団西宮公会教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所

れを教えていたのですから、ものごとの道理や取るべき道筋を、規範(旧約聖書)に基づいて「・・・と書いてあるではないか」と教えていたのです。だから、生ぬるくではなく、徹底して辛辣にそして容赦はなしにです。「・・・強盗の巣にしている」と。この批判は、もちろん“両替人”や“はとを売る者”にも向けられています。ですが、神殿で両替をしたりはとを売ったりなどの商行為が誰でも自由にできた訳ではありません。決められた額の“上納金”を支払うことで、特別の人たちに許可されていたはずです。それを許可する側にいたのが、たとえば祭司長、律法学者と呼ばれている人たちです。で、何よりも“強盗の巣にしている”という言葉が向けられているのは、そんな人たちです。それは神殿の管理者である祭司長、律法学者たちのことを“強盗”だと言っているに等しいのです。ということで教えていたのは、確かに神殿で商売をしているのは、もともとあるべき神殿の働き・・・祈の家からは程遠いことであるが、もっと許せないのはそれを許可して利益を得ている祭司長、律法学者たちの存在のことで、などということ、公然と教えるような振る舞いをまのあたりにして、祭司長、律法学者たちはもちろん激怒します。「祭司長、律法学者たちはこれを聞いて、どうかしてイエスを殺そうと計った」(マルコ福音書 11章 18節)、「祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちは、

イエスを殺そうと思っていた」(ルカ福音書 19章 47節)。ルカ福音書には、イエスを殺そうと思った者たちに“民衆の重立った者たち”も加わっています。そして、「民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていた」の“民衆”と区別しているように読めます。神殿を絶対的な力を取りしきっている祭司長、律法学者たちのような層の人たちがいて、そのもとで少なからず分け前にあずかる人たちがいて、そしてそんなことには全くあずからない逆に神殿に犠牲を献げる人たちがいて、たぶん神殿というものは成り立っていました。だとすると、少なからず分け前にあずかる人たち即ち、“両替人”“はとを売る者”がここで言うところの“民衆の重立った者たち”だったかも知れません。どんな場合の、どんな世の中でも、もし分け前にあずかれるなら、絶対的な力にすり寄って行く人たちはいたのです。それらのことをあばきたてるということではなく、祈の家が強盗の巣になってしまっていることがイエスには許せなかったということのようです。そんな言動の結果「・・・どうかしてイエスを殺そうと計る」人たちの確執はぬきさしならないものになって行きます。

(菅澤邦明)

ア コ ー ク ロ ー 通 信 (1 0 2)

この夏、といっても沖縄は11月前半くらいまで夏ですが、ダイエットと論文執筆にいそしむ予定でしたが、相変わらずの多忙でどちらとも当然のことながら失敗です。

その11月、沖縄では県知事選が予定されています。沖縄はどうしても「米軍基地」が課題となり、加えて2期8年「保守」=基地容認派が知事なので、反基地派は共産党から元自民党までを巻き込んだ統一候補でなければならぬと努力してきたところですが、この時代に「統一」を組むのであればそれなりの政策のすりあわせや人選そのものが問われるところですが、結局はうまくいかず「統一」候補擁立は難しい情勢を迎えてしまいました。思惑が交錯し、調整役の市民運動を名乗る人々が早々と一方の候補を推してしまい混乱に拍車をかけました。71歳の新人候補と本籍保守の二人が自公候補と闘うことになりそうです。思惑というのは、今年の9月、沖縄では多くの市町村議員選挙があるのです。各党派から候補者がでるわけで、県知事選で共闘する(かもしれない)といっても議員選挙はほとんど仁義なき闘いです。明日の友は今日の敵?ですから、誰が誰を推すか厳しい状況です。かの、辺野古現地をかかえる名護市も議員選挙ですが、4年前の反基地市長選統一候補は今回民主党から出馬、歴

戦の運動家は社民党から、今年の市長選で分裂選挙の当事者は無所属から、ジュゴン保護を訴えて地元で地道な活動をしている青年は沖縄社会大衆党から、基地誘致市長からにらまれている保守候補も無所属からと、本当に仁義も何もありません。結果として、みんな当選すればいいのですが、とりあえず自分中心でしょう。もしかすると、それらの選挙後知事選の動きがまたあるかもしれません。

ダイエット、「人間ドック」の期日を1ヶ月後回しにして努力しようとはしたのです。けれども本土からゲストが来て連日うまいものを食べ歩いたりして散々でした。特に、いますぐどうこうではないのですが、このままなら「糖尿病、痛風になるのは確実です」と脅かされました。

「論文」のほうは目も当てられません。今後1ヶ月に1章、パソコン打ちです。今回の県知事選、それもあって付き合いません。といいながら、12月、論文の締め切り間際なのに某大学の集中講義(朝鮮史)3コマも入れてしまいました。

去年見た沖縄本島北部、大宜味村の「海神(うんがみ、うんじゃみともいう)」を今年も見に行きました。豊漁・豊作感謝祈願の祭です。その祭を司るのは「神女(かみんちゅ)」ですが、昨年より人数が減っているよ

うでした。また2年に1度「餅」がふるまわれ、神と共食するのですが、これなど「昨年1度見たから今年には行かない」とすればわからないものです。

沖縄の旧盆、今年は本土より1週間早く、台風も近づいて「エイサー」も急遽中止になったところあったようです。

西宮公会堂の、良い子のお友達も、今回お会いできませんでしたが、雨ばかりだったのではなかつ

たでしょうか。

本職の、沖縄の知的障がい者通所授産施設・愛の園は、4月以降「自立できない自立支援法」で大変です。何しろ施設で汗みどろになって働いて、自己負担金をとられるのですから。いやあ、障がい者から施設に来るために金を取る時代が来るとは思ってもみませんでした。こういう日本の政権を許し、さらに悪くなるであろう政権ができようとしているのですから仕方ないのでしょうか。(沖縄・与那原 愛の園 後藤 聡)

大切な贈り物・津門川 49

“津門川との出会い”

私が津門川と出会ったのは去年の4月。

こいのぼりが泳いでいる川の姿を覚えています。でも“津門川”という名前を知り、意識して眺めるようになったのは今年の4月からでした。

子どもたちとの散歩の時や出勤の時などに津門川を眺めると、その時々によっていろんな表情を見せてくれます。春はタンポポなどの花に彩られ、夏は濃い緑に囲まれています。雨の後は濁っていて流れが速いし、穏やかにゆるやかに流れている時もあります。コイやナマズ、カモが泳いでいる時もあります。そんな津門川の色々な表情を見ていると、季節を感じられるし、様々な発見もあります。「津門川沿いに大根がで

きてる！」とか「今日はカメがいてんで！！」なんて声を聞くと、子どもたちも津門川を眺めながら幼稚園にやってくるんだ、と感じます。子どもたちの中でも津門川は大切な存在なんですね。散歩の時には毎回、必ず立ち止まって津門川を眺めます。その時々によって表情が違うから、何度見ても飽きないんだろうと思います。

津門川の意外な一面を見たのは川掃除の時。驚くほどたくさんのゴミが引き上げられました。上から見ていただけでは分からないゴミの多さ。これを見ると、掃除の大切さが分かりました。掃除に参加して、川をきれいに保ち、秋、冬とまだ見たことのない津門川の表情を楽しみたいと思います。

(山崎由貴)

川が生きる 人が生きる 第7回津門川塾
“津門川右岸道路を遊歩道化する” “夢”の実現の為に

日時：2006年10月14日(土) 午前10時～12時(予定)

場所：西宮公会堂集会室

(西宮市南昭和町10-22、TEL0798-67-4691)

共催 甲風園1・2丁目自治会 / 甲風園3丁目自治会 / 南昭和町自治会
昭和園自治会 / 北口南自治会 / 神戸女学院大学人間科学部・環境
生態系研究グループ / 西宮公会堂・西宮公同幼稚園
にしきた商店街・津門川の自然を守る会 / 門戸厄神商店街

津門川の夏の終わりに、白と桃色の芙蓉が石垣で花を咲かせ、すすきも穂を出し始めています。

第6回津門川塾(2006年7月8日)から、2ヶ月が経とうとしています。第6回津門川塾は、“川づくり、街づくり”がテーマでした。そのテーマにそって、地元自治会、商店街から具体的な提案があり、西宮市、兵庫県からはそれに答える発言や助言などもありました。中でも、高齢者や子どもたちの安全、そして安心して過ごせる川づくり、街づくりの一步として、津門川右岸(西側)道路を“遊歩道化する”(171号線から南、山手幹線まで)という意見が、参加者の関心を呼ぶことになりました。

津門川の治水、周辺の交通、道路事情などから、遊歩道化の実現は容易なことではありません。しかし、川が生きる、人が生きる街づくりの試みとして遊歩道化は、検討に値するというのが、参加者の共通理解であったように思えます。

第7回津門川塾は、そんな“夢”と、夢の実現の為に、広く地域の人たちが意見を出し耳を傾ける集まりになればと願っています。

“津門川右岸道路を遊歩道化する”する“夢”の為に、何が必要で、どうすればそんなことが実現するのか、いっぱい意見、提案を持って集まって下さい。

教会学校から

《8月の活動報告》

- 7月3日(月)～8月2日(水) 共同子ども能勢キャンプ
8月5日(土)～10日(水) 共同子ども沖縄キャンプ
(台風のため10日帰西)
8月1日(土) 兵庫フェニックス10条園フェスティバル
“あつまれみんなのひろば20周年”ポートピアホール”
8月2日(日) お土産持ち寄りパーティー 夏休み中の話などを聞いたり、
おいしいお土産を食べたりしました。

《9月の活動予定》

- 9月3日(日) 作って遊ぶ！電動歯ブラシを使って歯ブラシカーレース！
9月1日(日) キャンプのビデオ鑑賞。
9月1日(日) 敬老の日にちなんだ高齢化社会問題についての勉強会。
たのしくいろいろ学ぼう！
9月2日(日) 内容は未定です。たのしみにしててください。

たのしい学習塾

小学校1年生～4年生対象(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後3～5時

場所 ...西宮公会堂 1階集会室(日によって異なります)

参加費 ...450円(月/約4回、教材費含む)

小学校5年生以上(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後7～9時

場所 ...西宮公会堂 1階集会室

参加費 ...450円(月/約4回、教材費含む)

“学ぶことが嫌いにならない”“学ぶことが楽しくなる”学習塾です。根気よく付き合ってくれる愉快的なスタッフが揃っています！申し込みを希望される方は事務所までお申し出下さい。子どもたちにいい時間と場とつながりを用意できるようにがんばっています。

「それぞれの夏休みを過ごしたみんなが、 幼稚園に帰ってきました～！！」

「2学期元気に会おうね！」そう約束して迎えた夏休み。

夏休みには年長さんとお出かけイベント！がいっぱいでした。

1つ目は、富山県氷見市での宿泊保育。久しぶりの再会にもかかわらず、バスの中はおしゃべりがいっぱいです。いつ会っても変わらない、こんな仲間たちっていいな～と思いました。

毎年、「お泊り」ということへの子どもたちの反応は様々です。「一緒に寝ようね」って盛り上がってる子もいれば、「ぼくは、きょうくもんがあるからかえらないといけないんだ」と泊まるなんて聞いてない！！という感じの子。でも、みんな楽しい時間を過ごしていたら、いつの間にか夜になって、眠いから寝てしまったら、朝だった。「ひとりでおとまりできたんだ！」と自慢顔。そんな時間が今年も流れて行きました。「『しゅっちょうにいつてくるから～』っていつてきたんだ。」と言う子には笑ってしまったけれど～。

大迫力の獅子舞を見て、みんなで海に入って、おいしいもの食べて、花火もして！！こんなに長い時間子どもたちと一緒に過ごしてもらえるなんて、幸せな時間でした。

2つ目は、夏期保育での淡路島！カヌーに手作りお箸！！これがなくては年長さんを過ごしたとはいえませんが。途中雨が降る！ということもあったけれど、坊主頭の彼が「ぼくがいるからだいじょうぶ！てるてる

ぼうずのかわりになってあげる」と、そんな雨をどこかに吹き飛ばしてくれました。年長さんといっぱい過ごしたこの夏は私にとって、とっても『熱いもの！！』となりました。

夏期保育、ぽっぽさん・さんぽさん・らったさんも元気にやってきました。みんな夏休みの話を聞いて欲しくてたまらない様子。一齐に話し始めるから大騒ぎです。みんなといるとやっぱり楽しい！そう感じた瞬間でした。

夏期保育中は毎日プール！ぽっぽさんも顔に水がかかってもへっちゃらになっています。着替えの時、「あれ？みんなおなじもようがある」と不思議そうに教えてくれました。みんなのおなかにはズボンのゴムの跡・・・。「ぼくもある！」「わたしもある！！」とみんなのびっくりしてる様子がおかしくておかしくて。みんなと過ごす時間は大好きです！！手作りおやつも楽しみの夏期保育でした。

そして始まった2学期。夏休みにそれぞれの夏休みを過ごしたみんなが、幼稚園に帰ってきました。みんなの心にいろんな宝物を残してくれた夏休み。そんな日々を元気の源に変えて、2学期もいっぱいに楽しみましょう みんなが一緒だとそれだけで楽しくなってしまう毎日に、2学期はいろ～んな行事・イベントもいっぱいです。みんなの笑顔がいっぱい見られるそんな毎日でありますように。

(上田華子)

2006 年 9 月 あんなこと こんなこと...

- 9月 日(金) 早天祈祷会
- 9月 1日(日) 午後 1時~ 平木まつり、於：平木小学校。
- 9月 1日(木) 午後 6時~、ソールフラワー・モノノケサミット実行委員会、於：集会室。
- 9月 2日(金) 幼稚園、おはぎパーティー。

にしきた商店街...

- ・ 9月 3日(日) 午後 1時 30分~、津門川掃除
- ・ 9月 4日(木) 午後 3時~、にしきた街舞台実行委員会
(於：集会室)

アートガレーヂ

- ・ 野菜市：9月 5日(火) 9月 1日(火)
- ・ 9月 6日(水) ~ 1日(日)
年長組写真展 宿泊保育 i 氷見や淡路島に出掛けた時の写真など展示。
- ・ 9月 2日(金) ~ 10月 1日(日)
日本刺繍西宮教室作品展 「童夢」

関西神学塾

- ・ 9月 1日(金) 桑原重夫先生「使徒行伝を讀んでみよう」
- ・ 9月 2日(金) 関西神学塾特別講義
飯謙先生「旧約詩篇はなぜ編まれたか？」
- ・ 9月 1日(金) 勝村弘也先生「死海文書を讀む」
- ・ 9月 2日(木) 岩井健作先生「岩井健作の宣教学」
- ・ 9月 2日(金) 田川建三先生「マルコ福音書註解」

まいの勝手に何でも案内

どもー！気が付けば夏が終わってしまった模様ですが個人的にはまだまだ夏休みです！いやー大学生っていいですねー！中高でも二ヶ月夏休みはあったけど、時期が違います。9月という一般的に空いていて気候も過ごしやすくなる一ヶ月は大きい！というわけで二泊三日で横浜に行ってまいりました。いいご身分です。うふふ。それもただの観光旅行ではないのです。一番の目的はライブだったのです。新幹線代が往復でチケット代の6倍近かったという事実。ライブで体力を使い果たしてクラスの友達との旅行に行けなかったという事実。まあいいんです。それだけの価値のあるライブ（と旅行）でした。

となったら今回紹介するのはそのライブのバンド以外にありえないですよ！ていうか紹介したいだけなんですけど。こういう個人的趣向を紹介するのは連載再開してから初めてなんで気もひけるんですが、もうテンションで乗り切ります。まずバンド名は「RADWIMPS(あっとういんぷす) 横浜出身、メンバー4人全員21歳男性(というのも何か変)のバンドです。ジャンルは一応ロック・・・かな？ポップスかも。そこらへんの区別はよく分かりません。ラップもやっちゃうしね。去年メジャーデビューして売り出し中

で、今年はいっぱいCD出してます。作詞作曲担当の野田洋次郎さん(ボーカル)なんて現役大学生なんで、その忙しさは半端じゃないはずです。実際ベースの武田さんもライブ翌日、授業中にブログ更新してました。客のあたしが筋肉痛でバテてるのに・・・本気ですごいと思います。

で、これまで「好きなバンドと言えば東京事変！」だった私が今年に入ってここまで彼らにハマってしまったかということ(勿論今も東京事変大好きです)その音楽が好きだから、それに尽きます。当たり前ですが。前述のように作詞作曲は全部洋次郎さんがしてるんですが、曲ジャンルはバラードっぽい泣かせるものからビートルズ的なものやらライブで飛び跳ねまくるような激しいロックっぽいものやら色々で、それに乗っける歌詞がまた格別です。普通に歌ってたかと思えばとんでもなく早口なラップになったり日本語だったり英語だったり。そこらの女の子より数段きれいに高音を歌い上げたり。そして歌詞の内容とくればもう。メッセージ的なものは一曲一曲ハッキリしていてすごく素直なんだけど、それを表すのにものすごい量の言葉(それも全然高尚じゃなくてむしろたまに品のない言葉)

を駆使して自分で自分の歌詞に言い訳しまくって、でも結論はやっぱり単純なこと、て感じですよ。こうやって説明するのは難しいんだけど、余りに素直なものにはついツッコミをいれてしまうひねくれ者の私にはそれがしっくり来たのかもしれない。あ、歌は大体がラブソングです。全て実体験に基づく歌だと言うだけあってすごく等身大。歳も近いし。そんな恋ができればいいなあと思ってもなく思ってしまう(女性としては椎名林檎女史の歌詞の方が共感するところもありますが)。でも恋愛モノでない曲の歌詞も、同じように実体験に基づいて実際感じて考えたことを書かれたもので、いくつかは私にとって忘れることのできないものとなりました。

「Mr. Chi」とか「BUMP OF CHICKEN」か、歌詞が(曲も!)とっても良いバンドは沢山あるけれど、私は「RADWIMPS」が一番身近に感じられます。それは歳のせいが一番だろうけど、その素直じゃない素直さにも要因はあるんじゃないと思います。他のメンバーもRADWIMPSが大好きで、曲も歌詞も自分のものとして演奏してるから、爽やかで迷いがなくて。今からどんどん有名になってく内に、そういう身近さや疾走感が消えてしまうかもしれないのはとても心配だけれど、5年後も全く同じであるのはむしろ不自然だし、ちょうど今、自分もRADWIMPSと変わって行く時期に出

会えてその変遷を見守っていけるのは本当に嬉しいことだな、と、そう思うのです。興味がある人は是非聴いてみてください。アルバム3つ出てます。オススメ曲などもセレクト致します。最後に歌詞を一節。
「俺が生きてる今が この時が / 『嘘です 夢です 本当は君死んでます』 / って言われたそんな時に / 『はい、そうですか』って言える命になりたくないから」

(高橋 舞)

私が出会ったいろいろな人たち

先日、DVDを借りて、「Alwaysは、ときに意見をぶつけ合ったり、三丁目の夕日」という映画を観ました。以前から興味があったのと、気分転換にと思って借りたのですが、とてもすてきな映画でした。内容に関しては人によって好みが分かれるかもしれませんが、狭い横町に住む人々の人情あふれるやりとりや、それぞれの人生にドラマがあること、また近所付き合いといいますが、ご近所さんと何げなく力を貸し合う姿に、今の時代には少なくなった何かを感じ、とても心が暖まりました。

そんなときに、これからの時代にもこのような光景が必要だなあと感じたときに、ふと浮かんだ顔は、にしきた商店街、南昭和町自治会、津門川掃除にいられている方々のお顔でした。

ご存知の通り、月に一度第一日曜日には、教会の前を流れる「津門川」(つとがわ)の掃除が行われます。近隣の自治会やにしきた商店街が中心に、時には子どもたちも参加しての掃除です。暑い日でも寒い日でも行われる掃除の後は、必ずみんなで軽い食事をとります。食事をするのはいつも幼稚園の園庭で、決まった定番メニューが並び、カップラーメン・おにぎり・サンドイッチ・ジュースにビールといった感じです。商店街の会議や自治会などの集まりで

納得できないことにはきっぱり反対意見を言い合う関係でも、この時間はみんな川を大切にしているおじちゃん、おばちゃん、お兄さん、お姉さんになっています。最近感じたことや世間で話題になっているニュースなどについてあーだこーだと意見を言ったりして、にこにこしながらまた帰っていきます。

お昼に、お弁当を買いに歩いていても、となりの美容院のお兄さんがこんにちは～と声を掛けてくださったり、近くのお店に食事に行けば小さなおまけが付いてきたり、幼稚園がなにか騒がしくなったときには、近くのお店から店長が飛んできてどうした？と心配して下さったり。教会そして幼稚園の存在が、地域の中にたしかに存在感あるものとして存在していることがとてもとても嬉しいことだと再確認させられています。

街を歩いていて、またどこかの店に入ったとき、また何か困ったことがあった時に、そこがまったく知らない場所でなく、親しみのある場所であり、親しい人がそこにいるということが生活する上でとても心強いと感じています。

(田中知恵)

今月のあ・そ・び 電動歯ブラシカー

積木をたくさん積み上げて、一番下の一枚を引き抜いた瞬間に崩れる様子に、子どもたちはかたずをのんでそして大喜びします。いっぱい並んだドミノが、カタカタ音をたてながら倒れる様子にも、こどもたちはかたずをのんでそして大喜びします。

最近少し驚いて大喜びした遊びは、“電動歯ブラシカー”です。100円ショップの電動歯ブラシ(そんなものが売られている)の、握りの部分を洗濯バサミ(先端が物干し竿をはさめるように丸くふくらんだもの)ではさみ、車輪を取り付け、歯ブラシの部分を下に向け、スイッチを入れるとそっちの方に動き出すのには、子どもたちは少し驚いて大喜びしました。

この“電動歯ブラシカー”が紹介されていたのは、「たのしい授業」の2006年7月号です。

洗濯バサミに車輪を取り付けるクルマの遊びは、田中周子さんの本の中で紹介されています。厚紙を切り抜いたクルマ、竹串2本、洗濯バサミが二つ、車輪を4個用意すれば、2～3才の子どもたちでも遊べます。そして、このクルマはよく走ります。

電動歯ブラシカーは、電動歯ブラ

シに洗濯バサミが一つ、車輪は2個だけで、“自動”で動いてしまうところが、驚きで大喜びなのです。クルマのように、動く遊び道具の場合にかんじんなのは車輪です。「たのしい授業」に紹介されていたところによれば、もともとはゴムの車輪だったのは、発砲スチロール球を使うことで簡単にできてしまいます。9月3日に教会学校の子どもたちと遊んだ時は厚紙を切った車輪を使いました。こんな時の車輪作りなどに必ず登場するのが電動系のこです。お菓子の入っていた空き箱の厚紙を6～10枚ぐらい重ね、コンパスで必要な大きさの車輪用の円を描き、電動系のこで切れば、3～5セット分の車輪が一気に出来てしまいます。木はもちろんこうして厚紙を重ねて切ったり、布の場合も板ではさんで切ったりと、きれいに大量に遊びの素材を自家製で作ってしまえるのが電動系のこです。

電動歯ブラシカーは、グループ対抗で本気になって“レース”を楽しむことができました。

(菅澤邦明)

つとがわ
編集後記

ずいぶん以前のことですが、亡くなった母が地元の婦人会の企画だったので、皇居の草抜きの奉仕に出掛けたことがありました。そんな時に、“自分の家の周囲の草抜きも間に合わないのに、よくもよその家の草抜きを手伝えるもんだ”とからかったことがありました。

高齢化する父、母など身内のことで手をこまねくよりない状況で、よその家庭のことで大騒ぎするゆとりはないように思っています。

(K)

写真が大好きです。見るのも撮るのも好きです。なのでこの夏、いくつかの写真展に出掛けました。そして写真に写る風景に心揺さぶられる事がやっぱりあるんだなあ...と感じました。言葉よりもいつか出会った風景に励まされる事があるとおっしゃった写真家の星野道夫さんの写真を見ながら、泪が溢れました。これからいくつもの風景に出会って行くと思うけれど、通り過ぎないで覚えていたいなあと思ったりしました。

(I)

今月、誕生日を迎えて、たくさんの人達からお祝いをしてもらいました。なかなか会えない友達も、ちゃんと覚えてくれて祝ってくれ、心から嬉しく思いました。何歳になっても、お祝いしてくれる存在がいるっていう事は幸

せな事ですね。

(Y)

7～8月を振り返って。

その

娘と買い物に - 。レシートに記された全額以外の数字「A70、E75」！！

その

ビールにはまった！

おいしいのは「サントリーモルツプレミアム」買うのならこれ。今まで発泡酒や金額だけで(1ケース2390円につられて)ビールを購入してたけど“ごめんなさい！”

その

月2回発行のビッグコミック誌3誌。愛読すること30年。何を忘れてもこれらの発売日だけは～というのが自慢だった。のに、あまりの暑さと忙しさに失念した。ショックを隠し切れません。

(J)